

2023年度第2回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会

議事要旨

- 【日 時】 2023年11月10日（金）午後6時00分～午後7時40分
- 【場 所】 町田市庁舎2階 2-2会議室
- 【出席者】 委 員：松波委員（委員長）、奥委員（職務代理）、斉藤崇委員、
戸村委員、屋委員、土肥委員
事務局：町田市環境資源部 塩澤
環境政策課 池澤、高橋、土志田、田村、島田、杉山、
池田
コンサルタント：アオイ環境株式会社
- 【欠席者】 斎藤之良委員、齋藤栞帆委員、山本委員
- 【傍聴者】 な し

議題

1 2022年度実績の評価について

（1）第1回委員会での質問に対する回答

- 事務局から、説明を行った。

奥 委 員：No.3の回答について納得いかないところがある。特に、従来から把握してきた市庁舎以外の排出分も含めた排出量は、現行の計画では本庁舎に限定して目標を設定している。これは、ほとんどの部分を把握せず、目標数値にも勘案されないということになる。町田市環境マネジメントシステムのもとでは、現行計画の対象範囲と目標値の進捗状況をしっかり把握した上で、これまで把握していた本庁舎以外の施設から出る廃棄物排出量を事業系の一般・産業廃棄物を含めて参考値でもよいから把握し、フォローしていくことが必要ではないかと考える。本庁舎に限ると、排出量全体の5%強の数値しか把握しないということになり、95%は見ないということが問題認識としてある。

事 務 局：今回、市庁舎のみの廃棄物に限定した背景として、エコオフィス活動の取り組みによる効果を適正に評価する上で、以前は外的要因による影響が多くあったことから市庁舎のみの廃棄物排出量に限定した。その上で一般廃棄物資源化基本計画アクションプランと整合を図り、第5次環境配慮行動計画の目標値を設定した。公

共施設から排出される事業系ごみの削減に関しては、専門の審議会で行っていくことを考えている。

奥 委 員：コントロールできるところをまずしっかり把握し、目標値を設定するという考えに異論はない。本庁舎以外の公共施設から出る廃棄物についても、参考値としてしっかり把握して確認をしておく必要があるのではないかと申している。また、本庁舎だけの部分を見ると既に10%削減は達成できており、この先どうするのかという議論をしなくてはいけない。その回答もいただきたい。

事 務 局：まず一つ目について、今回は市庁舎のみの廃棄物排出量のデータで評価していただきたい。ただ、本庁舎以外からの廃棄物の割合が多いため、その分を注視していかなければと思う。今回の評価とは別にデータを確認していく。二つ目に、目標値10%をクリアしているという点については、廃棄物の審議会で新たな目標設定等があればそれに合わせて数値を変えたい。

(2) 一次評価について

- コンサルタントから、説明を行い、司会を務めた。

コンサルタント：今回2022年度の実績評価を行っていただくにあたり、町田市バイオエネルギーセンターの現地確認を10月26日に各委員に行っていた。議論に入る前に、参加した委員の皆様から当日の感想等をお聞かせいただきたい。

松波委員長：例年、エコオフィスチェックシートを用いて、点数の悪い職場を選び、状況確認のための視察を行ってきた。コロナ禍で何年か中止になっていたが、今回久しぶりに再開した。見学については、最新鋭の施設ということと同時に一番感銘を受けたのは、見学コースの充実である。環境啓発、環境教育を狙ったものとなっており、かなり充実していたことが特に印象に残った。もう一つ、環境資源部循環型施設管理課の視察に関しては、エコオフィスチェックシートの取り組み状況について、空調の適正使用や高齢者の適正使用等の項目は、視察したところ全て◎で問題ない。○、△になっていたところも確認したが、同行した委員全て共通した認識で、◎でよいと思った。厳しめの評価をされていたと考えられる。調査者によって評価にブレがあると感じるため、評価方法の統一を徹底していただきたいと考えた。

土肥委員：現地確認では、全体のディスカッションの後、エネルギー回収施設として、バイオガス化施設と焼却施設の2つを見た。もう一つ、不燃ごみに関してはリサイクルに取り組んでいるところを見せていただいた。環境資源部の職場については、職場の状況に関してチェック評価がかなり厳しいと感じた。一つの提案として、クロスチェックの実施または評価の基準となる状態を文書化するとよいと思った。

バイオガスと焼却施設は別物として理解した。焼却施設ではごみを燃やす際に熱回収をして三つの発電をしている。一つは、ガスタービンで、火力発電所と同じ理論で蒸気タービンを回して熱回収をしており、すごく大きい。別のラインでは、蒸気の一部を還元した水を利用した水力発電や一部で太陽光発電をしているという話があった。バイオガスについて、職員の方が、生ごみなどの有機性のごみは50%くらいしか含まれていないと申し訳なきさうにおっしゃっていたが、他は空気だと思われるし、余分に生成してもその分NOx（窒素酸化物）を除去しなければならない。現状で適切にNOx（窒素酸化物）を除去できているため十分である。惜しいところは、この2つの熱回収部分が連携していないこと。2つの施設は別々のものとして企画され、たまたま一緒の時期に一緒の場所にできたと聞いた。どうせ隣になるのなら、バイオガス化施設はガソリンエンジンではないものにするなど、もう少し何かできたのではないかと思った。予算が限られている中で、これだけのことができたというのはすごいことであるため、実施しての良い所や悪い所、発電量のデータや建設時の気づきなどを他の自治体に公開し、より良いものを世の中に向けて広めてほしい。そこでリーダーシップをとれるようになれば素晴らしいと思った。

コンサルタント：今日欠席されている斎藤之良委員からもコメントを頂いているので紹介する。

「先月の26日に町田市バイオエネルギーセンターの現地調査をさせていただいた。新しい施設で取り組み状況はきちんとされていた。1点、家電や廃棄予定の紙や什器などが混在しているケースが見受けられた。場所を決めて整理してもらえればと思う。」これは、オフィス内で廃棄予定のものをまとめているエリアをご覧になられての意見である。こちらの意見も今後の評価の参考にいただければと思う。

続いて、報告書の項目（１）から（５）と運用状況について６項目の議論をしていきたい。

評価項目(1)温室効果ガス・エネルギー

コンサルタント：（１）温室効果ガスについて、それぞれ３点４点の評価を頂いている。４点の評価をいただいた戸村委員、評価の内容はいかがか。

戸村委員：前年比でも温室効果ガス排出量は１７．３％削減されており、２０２２年度から町田市バイオエネルギーセンターで発電したCO2排出係数の低い電力を利用し、CO2総排出量も削減された。庁舎でも電力使用量の削減やCO2排出係数の低い電力を利用し削減を図られた。小中学校では、電力使用量が増加したもののCO2排出係数の低い電力を利用し排出量を削減された。引き続き目標達成に向けた取り組みを継続していただきたい。

コンサルタント：斉藤委員のご意見をお願いしたい。

斉藤委員：私も４で評価点をつけようと考えていた。削減はできているが、まだやることがあると感じた。

コンサルタント：松波委員、評価のご意見は特になかったが、いかがか。

松波委員長：実績値を評価基準に照らし合わせたところ、２０１３年度比－２３％以上が３になっており、その数値に近いため３を付けた。

コンサルタント：他に意見を発言したい方はいらっしゃるか。

土肥委員：先ほど現地確認の話でも述べたバイオエネルギーセンターに対する意見について、資料２（１）温室効果ガス・エネルギーに記載されているので後ほど見ていただきたい。

屋委員：目標を掲げてCO2排出係数の低い電力というのが、今回高く評価できた点である。最近の民間の動きとして、電力会社が出している環境価値がついてCO2排出ゼロのメニューを購入する動きが加速している感じを受けている。コストは増えるため税金の使い方として微妙だが、全ての電力にとは言わないが、そこにも関心を持っていただけるとよい。

コンサルタント：（１）の評価については、今回の外部評価委員会の後に最終評価をしていただく。バイオエネルギーセンターの見学の結果やここに書かれている内容、今回の発言を評価の参考にしていただければと思う。

評価項目(2) 資源（市庁舎の廃棄物）

コンサルタント：斉藤委員の評価はいかがか。

斉藤委員：ここも、4である。目標を達成しているという点は評価できるが、昨年までと状況が変わったことため単に目標を達成したというだけでは評価しづらい。

コンサルタント：屋委員、評価意見はなかったが、いかがか。

屋委員：目標を達成できているのは事実だ。達成できたから良いというものではなく、使う資源の絶対量を減らしていくべきと思っている。期待を込めて3にした。今後、さらに高い目標を設定してあげたらいいと思う。

コンサルタント：土肥委員、評価意見はなかったが、いかがか。

土肥委員：評価項目に対して減点加点があるかを見て、5にしている。

コンサルタント：皆さんの意見に加え、先ほど奥委員から、すでに目標を達成したことや基準が変わったとはいえ、本庁舎以外からの廃棄物排出量も把握したらどうかという意見もあった。今回いただいた意見を踏まえ、次の評価に役立てていただきたい。

評価項目(3)グリーン購入達成率

コンサルタント：グリーン購入達成率に対する評価は低くなっている。奥委員いかがか。

奥委員：コメントを入れなかったが、80%以上85%未満は2の評価基準通りのため、2でよいと思った。市役所自身の評価もそれに照らして2になっている。グリーン購入は100%に近い数値にしていくことが重要である。

コンサルタント：グリーン購入に関しては経年変化の状況を見て評価点を付けていただくことになる。それを踏まえて松波委員のご意見をいただきたい。

松波委員長：グリーン購入について、82.3%で前年度よりも上がっている。やはり、役所の行動としては100%を目指すべきということもあり、前年と同様2にした。

土肥委員：今まで認識されていなかった達成率が低い理由について、今回調査を実施し現状を認識されたとのことであるから、そこに向けて対処し、100%を目指すという認識で間違いないか。

事務局：今回、グリーン購入達成率が低い部局について調べた結果、必ずしもやむを得ない理由ではないことが分かった。達成率100%を目指すにあたり、今後はさらに踏み込んだ取り組みをしたいと考えている。前回の皆様からのご意見やご質問がなければ、我々

もわからなかった面もあったが、今回の調査で現状を知ることができたため、これからは現状を踏まえて新たな取り組みをしていきたい。

土 肥 委員：今回のこの後の説明を聞いて二回目の評価をしたい。

コンサルタント：グリーン購入に関しては、資料1も追加で配布されている。評価の参考にしていただければと思う。

評価項目(4)エコオフィス活動（職員共通）

コンサルタント：斉藤委員こちらの評価はいかがか。

斉藤委員：概ねよく取り組まれていると思っており、4で評価したい。自己評価は3になっているが、4でいいと思う。

コンサルタント：屋委員、いかがか。

屋委員：よく取り組まれていると思う。地道な活動になるが、報告を受ける限りでは意識を高く持っておられると思う。

松波委員長：視察する前は3と評価したが、実際に見てみると4にしたいと思った。

コンサルタント：エコオフィス活動（職員共通）は、視察をすることによりオフィスでは、とても取り組まれていることがわかった。視察の状況を踏まえて再度評価していただければと思う。

評価項目(5)エコオフィス活動（施設担当部署）

コンサルタント：5点が多いが、斉藤委員こちらの評価はいかがか。

斉藤委員：5でいいと思う。継続的にいろいろやっていくのは、非常に高い数字を維持するということ自体が重要だと思う。それを達成していると判断できるため5を付けたい。

コンサルタント：奥委員、いかがか。

奥委員：例年通り高い基準で取り組みが継続されていることと、評価基準に照らすと、5でよいかと思った。一方で、昼休みの消灯だけが58.6%にとどまっているのが非常に目立つ。全体的によくできているのにそこだけ低い数字というのは、評価基準が統一できていないとか評価の仕方に問題があるように思える。

コンサルタント：昼休みの消灯については戸村委員からもご意見を頂いているがいかがか。

戸村委員：私の職場でも同じような形で昼休みの消灯をしている。こういう取り組みは継続的にやっていくことが大切だと思っているが、消灯時には暗くなることもあり足元が見えにくくなる。事故につながっては本末転倒となってしまうため、通路の整理などにも注力していただけたらと思う。

土肥委員：思っていることは戸村委員や奥委員と同じ。前回、できない理由があるなら明確にして除外するよう意見したが、今回何も実施していなくて同じ結果だったことから、努力は認めるがマイナスで評価した。来年は達成率が悪くなるようなことがないようにしてほしい。

評価項目(6)研修の実施、環境法令の遵守、内部環境監査、情報公開

コンサルタント：2022年度の実績報告書の運用状況の内容について、研修の実施、環境法令の遵守、今回はないが内部環境監査、情報公開という項目での総合的なシステム運用に対する評価となる。こちらはご意見が割れているが、斉藤委員、第一段階での評価結果をお知らせいただければと思う。

斉藤委員：わたしは4をつけた。改善されている内容もあるが、法令遵守のところで、事例が出ていているということ踏まえてもう少し頑張っていたきたいと感じている。

コンサルタント：奥委員、いかがか。

奥委員：法令遵守以外は非常によく納まっていて問題ない。法令遵守は最低限クリアしなくてはいけないところをできていない状況が続いているため、2を付けざるを得ない。資料1 No. 8に記載しているが、マニフェストに関わる報告は毎年必ずやらなければならないことであり、しっかりとシステムティックになされる体制を整える必要がある。

コンサルタント：屋委員、いかがか。

屋委員：研修はやられているが、法令遵守においてまだ改善できていないところがある。行政としてしっかり対応して欲しい。

コンサルタント：土肥委員も評価2で、同じく環境法令の部分かと思うが、いかがか。

土肥委員：奥委員の意見に同意で、法令遵守ができていれば評価点は4くらいと思われる。昨年、eラーニングについて、100%が基本

と述べたが、本当にやってくれた。フォローするのは大変だったと思うが、申し訳ないが委員の意見と同じで2である。

コンサルタント：次は、良い点を評価してくれた戸村委員からもご意見をお願いしたい。

戸村委員：eラーニングについて、私の職場でも同じようなことをしているが、100%というのは大変評価できると感じた。法令について、遵守することは必須。チェックリスト等を活用して、見落としの防止や環境法令遵守の知識向上をさらに高めていただければと思い、4をつけた。

外部評価報告書 まとめについて

コンサルタント：実績報告書の（1）から（5）までの5項目と運用状況のトータル6項目について議論したが、最終的な評価結果を2023年度の外部評価報告書として取りまとめさせていただく。報告書における2022年度実績の「まとめ」の部分について議論を行いたい。2022年度の実績評価の中で特に重点的に取り上げたい項目を3つほど挙げていただきたいと思います。評価報告書のまとめで、これから期待する部分、運用についてよくできていると評価できる部分と今後改善が必要な部分と、皆さんのご意見を伺いたい。

松波委員長：システム全体の運用に関して、環境法令の遵守がいつまでたってもゼロにならないのがかなりの問題だと思う。昨年から引き続き、環境法令の不遵守はあってはならないことについて記載が必要だと思う。その他、温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の項目と資源の項目について、目標は達成されているが、基準の見直しを含め、引き続き努力を促すような考え方が必要と感じた。グリーン購入とエコオフィス活動に関しては、評価の統一という面でブレがあると例年感じており、そこが課題だと思っている。

奥委員：環境法令遵守は、これまでと同様引き続き指摘していただきたい。環境パフォーマンスについては、温室効果ガスと廃棄物とグリーン購入の3点は入れていただきたい。温室効果ガス排出量・エネルギー使用量については、2022年度は下水処理施設におけるバイオマス発電への切り替えや、清掃工場の建て替えに伴う電気使用の終了といった特殊要因が大きく寄与していたことから、今後同様に大幅削減をはかることは難しい。どのように20

30年目標に向けて着実な排出削減をしていくかが課題となる。資源（廃棄物）に関しても、市庁舎の事業系ごみに限った把握は大事だが、他の排出量についても参考値としてフォローしていく必要がある。グリーン購入については、やむを得ないとはいえない理由があげている部局があり、そこが達成率を下げているという実態が明らかになった。そのようなことがないようにすべきと考える。

齊藤委員：環境パフォーマンスについては改善が必要と考えている。また、環境法令遵守についても、あってはならない状況が続いているため一層の取り組みが必要。ただ、エコオフィス活動に関して、先ほど松波委員から、エコオフィスサポーターの方のつけられた評価が低いという話が出ていたが、当たり前のレベルが上がっているため結果として、相対的に低い評価結果になっていると考えられる。当たり前のレベルを上げていく中で、環境法令の遵守も当たり前になるような取り組みを進めていただければと感じた。

戸村委員：温室効果ガス排出量・エネルギー使用量について、2030年までに46%削減というのは非常に大変な目標だと思うが、これからも地道に取り組みを継続していただきたい。資源のところは目標達成して評価点も5ですが、これも継続していただきたい。グリーン購入について評価点は低いが、さらなる取り組みを進めていただきたいということで、この3つをあげている。

土肥委員：良いところの一つは、焼却場に発電施設をつけバイオ発電の稼働を開始し、去年試運転でエネルギー使用量が増えていたが、相当効果が出てきていよいよ稼働させたというのは、本計画に寄与するかどうかは別として町田市として素晴らしい取り組みである。成功したとしても失敗したとしても、世の中に対してのデータになる。取り組み自体が素晴らしいため、この内容について載せたい。もう一つ、e-ラーニングで100%を達成できたことはすごい。悪いところは、法令遵守。計画を立て、見える化でき、宣言できたということはすごいことであり、努力は認めるが、来年は必ず達成してほしい。あとは、目標値の見直しについて、いよいよ目標を達成しきってきたところにきていると思うが、モノのライフサイクルを考えたときに何が一番エコか考えてほしい。例えば、太陽光発電は電気だけ考えればよいと思うが、後始末まで考えるとどうか。水素電池の良い評判を聞くが、NOx（窒素酸化物）が排出されてしまい、結局処理しなければいけなくなる。そうい

うところまで踏み込んで、特に大物である車などの商品について見直してほしい。高望みではあるが、製造時にエコであるだけでなく、生産から廃棄までのライフサイクル全体を見て購入する商品を選んでいけるような体制をつくっていただきたい。

コンサルタント：いただいたご意見を踏まえて、松波委員の方でまとめていただければと思う。進行を松波委員長にお返りする。

松波委員長：本日ご審議いただいた内容及び会議後にご提出いただく「評価シート」の内容をもとに、報告書をまとめさせていただきたい。作成した報告書案は、後日各委員に送付するので確認をお願いしたい。そのうえで、最終的な報告書の完成にあたり、文言等、軽微な訂正は、委員長一任で修正させていただきたいと思うがよろしいか。

全 委 員：異議なし。

連絡事項

- － 今後の外部評価委員会の流れについて、事務局から説明した。
- － 各委員から挨拶をいただいた。
- － 事務局から挨拶。

以上